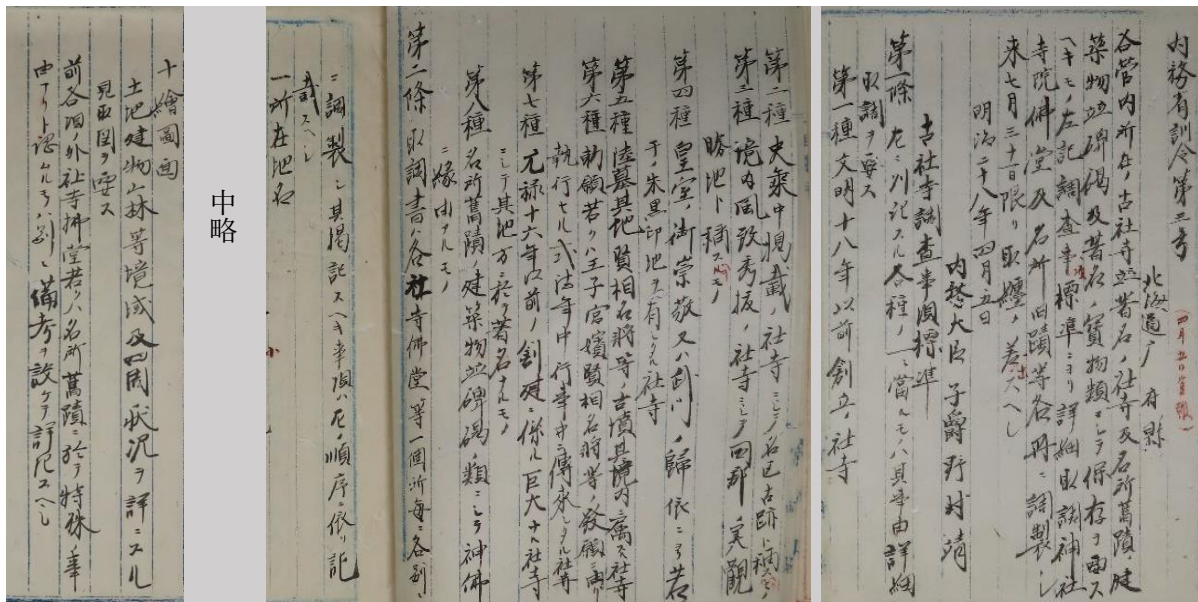


神社のある風景絵図と特殊神事

1. 明治28年の調査報告資料にみる神社のある風景絵図

明治28年(1895)、国は明治維新後の混乱から文化財の散逸を防ごうと、文化財保護の目的で文明18年(1486)以前に創立された社寺のほか、「古社寺・著名な社寺・名所旧跡の建物・^{ひけつ}碑碣・宝物類」を把握するための調査を行っており、県から国へ提出した調査報告書(142社寺)の控えが文書センターに保存されています。調査報告書の中には社殿の絵図面も添付するよう求めた項目があり、今回はその中から6つの神社の絵図を紹介します。1世紀以上前の絵図から当時の生活等に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。



内務省訓令第3号(明治28年4月5日) 古社寺調査事項標準
1079993(2-1)「県郷村社以下寺院」

第1条には、天明18年以前に創立した社寺を含め7項目に該当する古社寺、著名な社寺、名所旧跡の建物、^{ひけつ}碑碣、宝物類を調査対象に指定しています。

第2条には、所在地名等報告すべき10項目が定められています。今回紹介する絵図面はこの10項目目に定められています。

(1) 黒口神社

鎮座地 西白杵郡高千穂町大字上野2215番地
祭神 おやまくいのみこと 大山作命 すさのおのみこと 須佐乃男命 たけみかづちのみこと 建御雷命 よつぬしのみこと 経津主命
すがわらみちぎねこう 菅原道真公 おおやまつみのみこと 大山祇命 あめのむらくもみこと 天村雲命 あめのみくだりのみこと 天三降命

由緒沿革 創立の年月は明らかではありません。天曆9年(955)、慶安2年(1649)4月17日、元禄元年(1688)12月15日、寛政5年(1793)6月の再建棟札が残されています。明治4年(1871)12月に村内の小社、祭神大山作命、大山祇命、須佐乃男命、建御雷命、経津主命、菅原道真公を合祀し、社名を黒口神社と改めました。
(「県郷村社以下寺院」108000 西白杵郡神社明細帳(黒口神社)から)



山頂からの景色



神社への階段



鳥居



拝殿

(2) 愛宕神社

鎮座地 延岡市愛宕山6112番地口号

祭神 いざなみのみこと かぐつちのみこと
伊邪那美命 軻遇突知命

由緒沿革 延岡城内に祀られていたものを慶長元年（1596）、領主高橋右近将監が城砦建築のため、旧称笠沙山に遷して、その山を愛宕山と改めたのが創建です。慶長19年（1614）7月、肥前国島原の城主有馬左衛門佐直純が延岡領主となり、寛永元年（1624）には神殿を再建し、毎年三度の祭典を定めました。明治3年（1870）12月1日に郷社恒富神社に合祀しましたが、明治13年（1880）1月12日に許可を得て本殿を現在地に建立、境内を整備しました。明治20年（1887）1月31日には恒富村の信徒氏子から多くの寄附を受けたと記されています。

〔県郷村社以下寺院〕107994（2-1） 延岡市神社明細帳（愛宕神社）から



麓の鳥居



山頂の鳥居



拝殿

(3) 舞鶴神社

鎮座地 児湯郡高鍋町大字上江字島田 1345 番地

祭神 品陀和気命 ほんだわけのみこと 住吉三筒男神 すみよしみつおのかみ 武内宿祢 たけのうちのすくね 菅原道真 すがわらみちざね 漢高祖 かんのこうそ 熊野三神 くまのさんじん
くらおかみのかみ 閻淤加美神 たからべきだつな 財部貞綱 おおくらはるさね 大藏春実 ごかんれいてい 後漢霊帝 あじしおう 阿知使王
あきづきけきだいしんれい 秋月家歴代神霊 あきづきたねたつ 秋月種樹

由緒沿革 天慶6年(943)筑前国夜須郡秋月村南宮岳上に勧請し、秋月八幡宮と称しました。
 天正15年(1587)日向に移封の際、高鍋城内に祀りました。明治4年(1871)7月廃藩に当たり、秋月家歴世の神霊を合祀し、旧城名を取って舞鶴神社と称しました。
 大正9年(1920)4月2日秋月種樹公の霊を合祀、大正14年(1925)郷社に、昭和17年(1942)10月10日県社に列せられました。
 (「県郷村社以下寺院」107999(2-2) 児湯郡神社明細帳(舞鶴神社)から)



参道入り口付近



参道



鳥居



拝殿

令和4年10月撮影

(4) 宮崎神宮

鎮座地 宮崎市神宮2丁目4番1号

祭神 かんやまといわれひこのすめらみこと 神日本磐余彦天皇 (相殿) う が やぶきあえずのみこと 東 鵜鷺草葺不合尊 たまよりひめのみこと 西 玉依姫命

由緒沿革 社伝によれば神武天皇の御孫、健甕龍命たけい わ たつのみことが筑紫の鎮守であったとき、皇居の靈蹟に社祠を建て、天皇のご神霊をお祀りしたのが創建の始めであるとされています。明治6年(1873)5月神武天皇社から宮崎神社と改め県社に、明治8年(1875)8月10日に国幣中社に、明治11年(1878)5月に宮崎宮に改称すべき旨仰せ出され、明治18年(1885)官幣大社に昇格しました。それから大正2年(1913)7月4日宮崎神宮へと改称されました。

(「官国幣社」107918 宮崎神宮明細帳から)



鳥居



鳥居



神門



拝殿

(5) 鵜戸神宮

鎮座地 日南市大字宮浦3232番地（現住所）

祭神 ひこなぎさたけうがやぶきあえずのみこと
日子波瀲武鸕鷀草葺不合尊

相殿 左 おおひるめのむちのみこと 大日靈貴命 あめのおしほみのみこと 天忍穗耳尊

正 正祀 かむやまといわれひこのみこと 神日本磐余彦尊

右 ひこほのくにぎのみこと 彦火瓊杵尊 ひこほほでみのみこと 彦火火出見尊

由緒沿革 勧請年月は明らかではありませんが、崇神天皇の時に六柱の御神を鎮座奉り鵜戸神社と称していました。明治7年（1874）3月官幣小社に列せられ鵜戸神宮と改称し、社殿等の伊東家の定紋を除き菊章に変えられました。明治28年（1895）10月官幣大社に昇格しました。

（「官国幣社」107918 鵜戸神宮明細図書から）



参道



神門



参道



本殿

(6) 榎原神社

鎮座地 日南市南郷町榎原甲 1134 番地 4

祭神 あまてらすおおみかみ あめのおしほ みのみこと ほ に にぎのみこと
天照大神 天忍穂耳命 火瓊杵命
ひこほほでのみみこと うがやふきあえずのみこと かむやまといほれひこのみこと
彦火火出見命 鵜鷦草葺不合命 神日本磐余彦命

由緒沿革 万治元年（1658）12月23日飩肥藩主伊東大和守祐久が官幣大社鶴戸神宮のご分霊を勧請し、藩内護国の鎮守として創建しました。明治元年（1868）に榎原神社と改称し、明治6年（1873）郷社に、昭和5年（1930）8月2日県社に昇格しました。

〔県郷村社以下寺院〕 107997 南那珂神社明細帳（榎原神社）から）



鳥居



楼門下の龍



拝殿



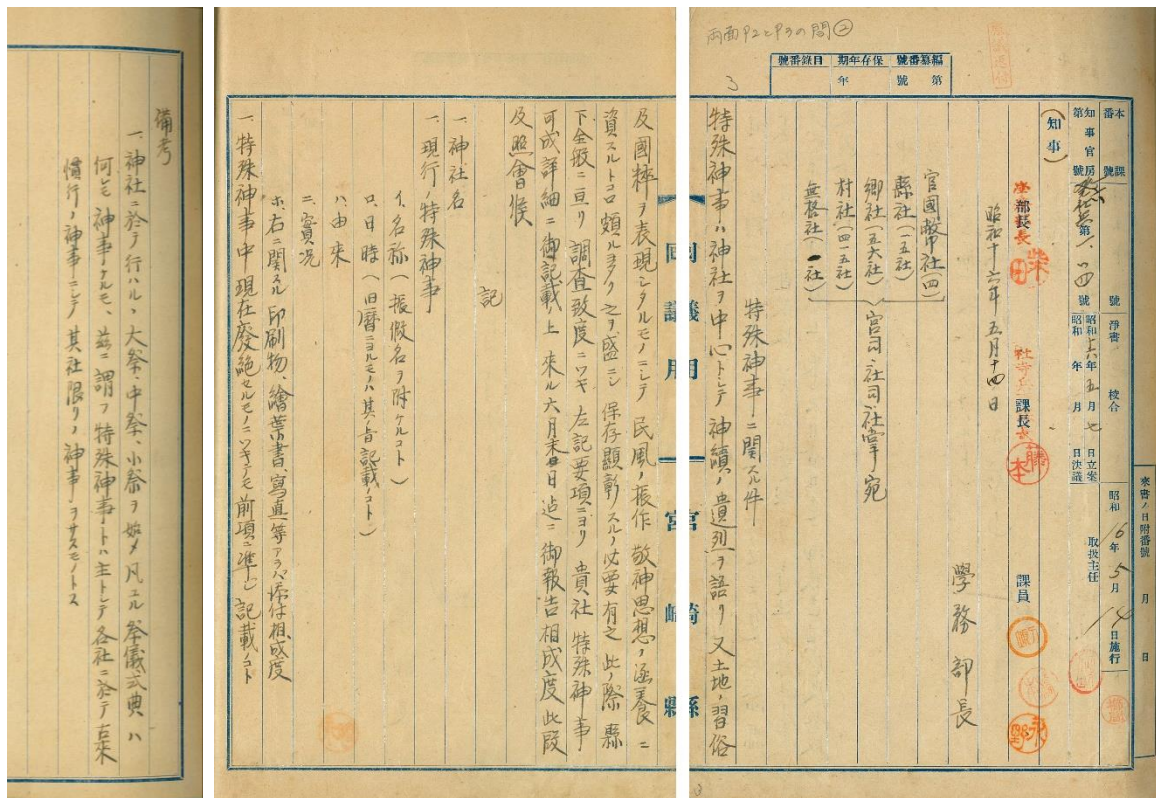
鐘楼

2. 県が行った調査資料にみる特殊神事

昭和16年5月から同17年7月にかけて、県学務課は県下の神社を対象に「特殊神事(※)」の調査を行いました。特殊神事は、その土地の風習や生活様式を表現しているものであり、神を敬う心を養い育てることに役立てられるということで、この特殊神事をさらに盛り上げ保存し、世の中に広く知らせる目的で調査が行われました。この調査では304ヶ所の神社から報告がありましたが、その中から神楽(①西米良村八幡神社の西米良神楽 ②高原町狭野神社の狭野神楽 ③東米良村(現西都市)銀鏡神社の銀鏡神楽)を紹介いたします。宮崎の神楽は、県央を境に県北部の冬神楽・夜神楽、県南部の春神楽・昼神楽に二分されます。

※特殊神事…各神社において古来慣行の神事であり、その神社限りのもの

※以下に続く解説文においては、〔 〕内は筆者の注記、旧字は新字に変換し、句読点を付けています。



特殊神事に関する調査依頼 (108354(3-1)) 「神社 (神宮を含む) 及寺院」

(1) 村所神楽 八幡神社 (西米良村) の報告

昭和十七年七月十四日

児湯郡西米良村大字村所

村社八幡神社社掌

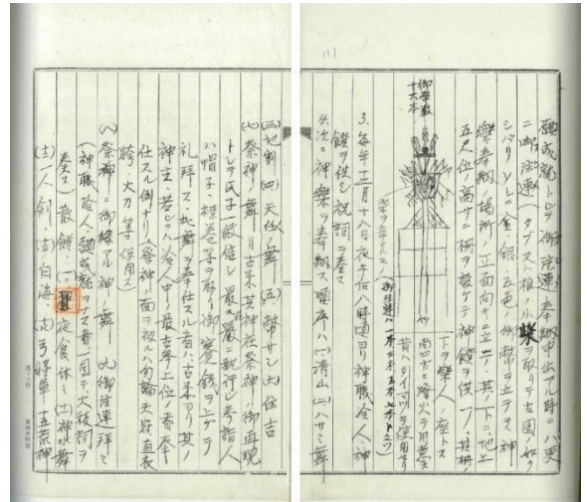
田爪末廣印

宮崎県学務部

社寺課御中

特殊神事ニ関スル件報告

五月八日付発社兵第一〇四号御照会相成候首題ノ件
左記及報告候也



報告書 (部分)

奉納場所に建てる「御注連」については、詳しくイラスト付きで説明しています。

記

一、神社名 八幡神社

一、現行ノ特殊神事

イ、名称 例祭ノ神楽

ロ、日時 (新) 十二月十八日午後八時頃ヨリ十九日
夜明迄

ハ、由来

何等記録ナク何時頃ヨリ行ハレタカ不明ナル
モ、古来慣行ノ神事ニシテ「天ノ岩戸前ノ行事」
ヲ基トシテツクラレタモノノ如ク、旧藩時代ニ
ハ、旧米良領主又ハ代参アリテ最盛大ニ行ハレ
タル由ナリ。現在モ変リナシ。

ニ、実況

1、神楽奉納ノ場所 神社仮社務所ノ庭 (露天)

2、設備 四方ニ榊3本椎2本〔図あり〕ヲ立テ注連

繩ヲ張り、御幣ヲ (白・赤・青) 下ゲ、中ニ庭

ヲ八枚敷ク。氏子中又ハ個人ニシテ立願者願成

就トシテ、御注連奉納申出アル時ニハ、更ニ御注連 (タブ又ハ椎ノ小柴ヲ取りテ左図
ノ如クシバリ、ソレニ金・銀・五色ノ御幣ヲ立テテ、神楽奉納ノ場所ノ正面向キニ立
テ、其ノ下ニ、地上五尺位ノ高サニ柵ヲ設ケテ神饌ヲ供フ。其柵ノ下ヲ楽人ノ座トス。

尚四方ニ灯火ヲ用意ス。昔ハ、タイマツヲ使用セリ。〔図あり〕

柴ヲ立テタルモノ (御注連ハ一本、三本、五本、七本ト立ツ)

3、毎年十二月十八日夜午後八時頃ヨリ神職伶人、神饌ヲ供シ祝詞ヲ奏ス。

4、次ニ神楽ヲ奉納ス。順序ハ (一) 清山 (二) ハサミ舞 (三) 地割 (四) 天任(人)
ノ舞 (五) 幣サシ (六) 住吉 (七) 祭神ノ舞 = 古来其神社祭神ノ御再現トシテ氏子
一般信シ、最モ莊嚴ニ執行シ、参詣人ハ帽子、襟巻等ヲ取り御賽銭ヲ上ゲテ礼拝ス。



実際の祭場の様子

(平成元年12月16日撮影)

(宮崎県文書センター保管)

此舞ヲ奉仕スル者ハ、古来ヨリ其ノ神主、若シクハ伶人中ノ最古参上位ノ者奉仕スル例ナリ。(祭神ノ面ヲ被ルハ勿論、天冠、直衣袴、大刀等使用ス) (八) 祭神ニ御縁アル神ノ舞 (九) 御注連拝ミ(神職伶人、願成就ヲナス者、一同ニテ、大祓詞ヲ奏ス) 散餅 (一〇) 夜食休ミ (十一) 神水舞 (十二) 一人剣 (十三) 白海 (十四) 弓將軍 (十五) 荒神 (十六) テイ (十七) 伊勢神樂 (十八) 手カノ舞(一) (十九) 戸隠ノ舞 (二十) 手カノ舞(二) (二十一) ハサミ舞 (二十二) ヘヤの神舞 (二十三) 成就神樂

5、郷土、年中行事ノ最大ナル祭ナルガ為メ参詣人人出多ク昔ヨリ賑ヒ、神樂奉納中、夜食休ミヨリ以後ハ参詣人、囃ノ歌ヲ歌ヒ賑カナリ。

ホ、右ニ関スル印刷物写真等ナシ

一、特殊神事中現在廃絶又ハ中止セルモノ

1、イ、神送り

ロ、日時 十二月十九日 朝午前九時頃ヨリ

ハ、由来

旧記録ナク不明ナルモ、老人ノ伝フル所ニヨルト、神樂奉納終了後仮社務所内ニテ行ハレシト。

ニ、実況

明治ノ初年頃迄ハ行ハレタル由ナルモ、廃絶サレ居ルタメ、老人ヨリ聞キ□程度ニヨルト、先ツ神樂奉納終了後、前記ノ時刻頃神(上)座敷ノ中央ニ神籬ヲ天井ヨリ下ゲ、神職伶人服装ヲナシ、各自ニ散米ヲ入レタル三宝ヲ持チ、「何々ノ神様、御祭りノ儀モ目出度終了ニ付、元ノ鎮座ノ御社へ御還リ遊サレマス様ニ。」ト云フ神歌ヲ歌ヒナガラ散米ヲナシ、ソレガ終ルト、伶人が、スゴモノ上ニ三宝ヲノセテ上(神)座ヨリ台所ノ方へ行クト、シリサシ面ト云フノガ、米ヲツクキネ□ヲ手ニ持チ乍ラ掛声ヲシテ、スゴモヲ引イテ行ク伶人ノ後ヲ追ヒ、他ノ神職伶人等ハ、其後ヨリ掛声ヲ合セテ台所ヲスギ、土間マデ三回行キシト云ウ。

ホ、右ニ関スル印刷物写真等ナシ

2、イ、狩面ノ神事

ロ、十二月十九日 正午頃ヨリ

ハ、由来

米良ハ山中ニテ獸類(猪・兎等)多ク獵師多カリシ為メ、獵ノ幸、多カラン事ヲ神ニ願ヲ立テ、其神事トシテ獵ノ神(大山祇命)ノ面ヲ被リ、獵ノマネゴトヲナセリ。此ノ神事ハ大正ノ末頃迄続キタルモ、近来猪等ノ獸モ次第ニ減少シ獵師モ少クナリタルタメ、中止ノ状態ナリ。

ニ、実況

右ノ如ク獵ノ神面ヲ被リ、四、五名ノ獵師ガ(神ニ願ヲ立テテ置ク。神職ニ依頼シ、又許可ヲ受ケテ置ク)獵ヲナス場面ノマネゴトヲナス。然シテ、二三日後、其ノ獵師協同ニテ實際ニ獵ヲナシ、エモノヲ取り神社ニ御礼参リヲナス行事ナリ。(以上)

(2) 狭野神楽 狭野神社 (高原町) の報告

狭野神社は、現行(当時)の特殊神事として狭野神楽のほかに2つの神事を紹介しています。天孫降臨の際、天津神が天孫に稲穂を降ろした故事に起源を発する苗代田祭と、神恩報謝あるいは豊臣秀吉が朝鮮出兵の折、薩摩藩凱旋の後に奉納されたことに由来するとも言われる御田踊です。

下に紹介する狭野神楽についても天孫降臨の故事に由来し発達したものであり、剣舞の多いことが特徴的で国の重要無形民俗文化財となっています。

3. (イ) 名称 狭野神楽

(ロ) 日時 毎年旧九月十六日

(ハ) 由来

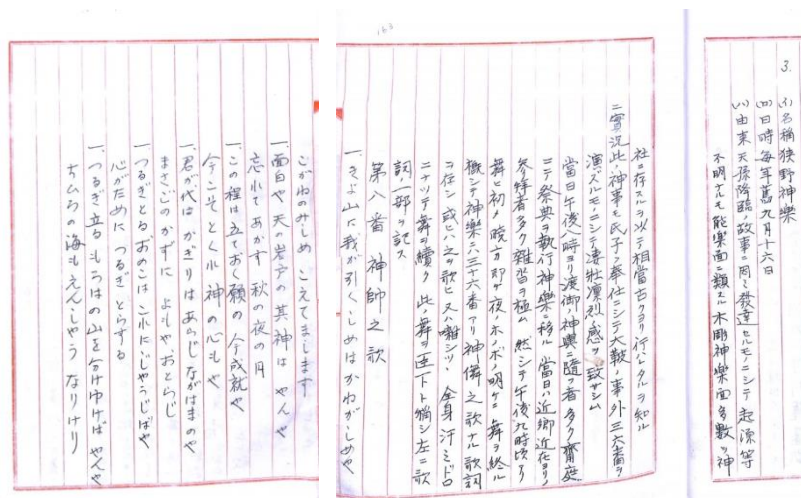
天孫降臨ノ故事ニ因ミ発達セルモノニシテ起源等不明ナルモ、能楽面ニ類スル木彫神楽面多数ヲ神社ニ存スルヲ以テ、相当古クヨリ行ハレタルヲ知ル。

ニ 実況

此ノ神事モ氏子ノ奉仕ニシテ、大鞍ノ事外三六番ヲ演ズルモノニシテ、凄壯凜烈ノ感ヲ致サシム。当日午後八時ヨリ渡御ノ神輿ニ随フ者多ク、齋庭ニテ祭典ヲ執行神楽ニ移ル。当日ハ近郷近在ヨリノ参拜者多ク雑踏ヲ極ム。然シテ午後九時頃ヨリ舞ヒ初メ、暁方即チ夜ノホノボノ明ケニ舞ヲ終ル。概シテ神楽ニハ三十六番アリ。神舞之歌ナル歌詞ヲ存シ、或ヒハ之ヲ歌ヒ又ハ囃シツ、全身汗ミドロニナツテ舞ヲ続ク。此ノ舞ヲ臣下ト称シ左ニ歌詞ノ一部ヲ記ス。

第八番 神師之歌

- 一、きよ山に我が引くしめはかねがしめや こがねのみしめ こえてまします
- 一、面白や天の岩戸の其神は やんや 忘れてあかす 秋の夜の月
- 一、この程は立ておく願の今成就や 今こそとくれ 神の心もや
- 一、君が代は かぎりはあらじ ながはまのや まさごのかずに よもやおとらじ
- 一、つるぎとるおのこは これにじやうじばや 心がために つるぎとらする
- 一、つるぎ立る もろはの山を分けゆけば やんや ちひろの海もえんしやうなりけり



報告書 (部分)

(3) 銀鏡神楽 銀鏡神社（西都市）の報告

「前夜祭」^{ごへいもち}「御幣持」^{ししとぎり}「猪尖」^{ししとぎり}「宮相撲」が現行（当時）の特殊神事として報告されています。国の重要無形民俗文化財に指定される要素の一つとなった「猪尖」については、次のように報告されています。

一、神社名 同〔銀鏡〕神社

一、現行ノ特殊神事

イ 名称 ^{シシトギリ}猪尖

ロ 日時 十二月十五日祭典後

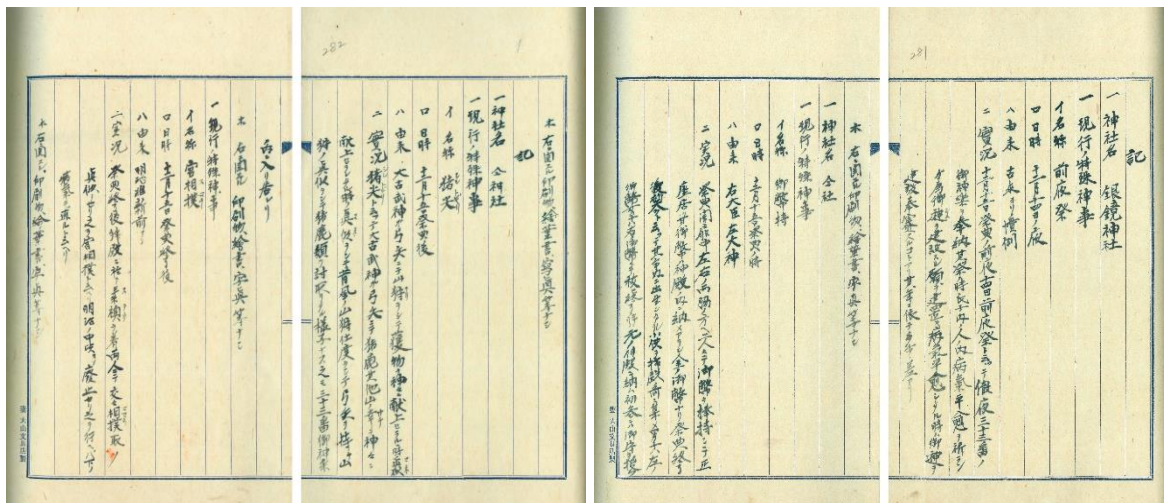
ハ 由来

大古武神ガ、弓矢ニテ山狩^{カリ}ヲシテ獲物ヲ神々ニ献上セラル時ノ真似

ニ 実況

猪尖ト云ツテ、大古武神ガ弓矢ニテ猪鹿其他山ノ幸^{サチ}ヲ神々ニ献上セラレタル時ノ真似ヲシテ、昔風ノ山狩支度ヲシテ、弓矢ヲ持チ山狩ノ真似ヲシテ、猪鹿類ヲ討取りタル様子ナス。之モ三十三番御神楽ノ内ニ入り居レリ。

ホ 右ニ関スル印刷物、絵葉書、写真等ナシ



報告書（全文）



ししとぎり
猪尖

爺と婆と狩行司^{かりぎょうじ}が登場し、狩猟独特の狩言葉に地元言葉を交えた狩りの様子。

（平成2年12月15日撮影）

（宮崎県文書センター保管）



献納された猪の頭（サチミタマ）

（平成2年12月14日撮影）

（宮崎県文書センター保管）

え もの
【彫り物】

神楽の舞台である御神屋は、神々を迎える神聖な場所です。そのため、四方に注連縄を張って結界とし、「彫り物」と呼ばれる切り絵細工や、宇宙星宿を象った「天蓋」で飾ります。ここでは諸塚神楽の彫り物を紹介します。諸塚神楽には南川、戸下、桂の3つの神楽があります。彫り物の模様は地域毎に異なりますが、諸塚神楽のものには、神社・龍・鹿・馬・牛・オシドリなどが彫られています。桂神楽では「えりめ」、戸下神楽では「ざんせつ」と呼ばれ、「大神楽」の時のみ飾られます。桂神楽の大神楽は諸塚神社で行われます。



八幡宮の馬



あさひ龍



上り龍



二頭ジカ



日月鳥居にフサヲツク



稲荷大明神

終わりに

今回は、紙面の関係で一部の神社等に限って紹介いたしました。紹介しきれなかった神社等がまだまだたくさんあります。興味のある方は、このホームページ内の閲覧申請手続に従って申請をしていただければ、ご希望の神社等の資料の有無を確認し、所蔵している場合は後日閲覧をしていただくことになります。申請をお待ちしております。

今回、紹介した神社のある風景絵図及び特殊神事に関わる神社等は以下の通りです。興味を持たれた方は、この住所を参考に訪れてみてはいかがでしょうか。

: 特殊神事

: 風景絵図

諸塚神社
諸塚村大字七ツ山7190




八幡神社
西米良村村所字鶴12




銀鏡神社
西都市大字銀鏡493



狭野神社
高原町大字蒲牟田117



榎原神社
日南市南郷町大字榎原甲
1134-4



黒口神社
高千穂町大字上野2215



愛宕神社
延岡市愛宕山6112番地



舞鶴神社
高鍋町大字上江字島田1345



宮崎神宮
宮崎市神宮2丁目4-1



鵜戸神宮
日南市大字宮浦3232